

NPO（特定非営利活動法人）

映画美学校

THE FILM SCHOOL OF TOKYO

フィクション・コース第26期高等科

募集要項

Fictional Film Production Course

2023

フィクション・コース第26期高等科 カリキュラム

■ 初等科体験から高等科体験へ

初等科体験とはいっていい何だったのか？ 映画に対する知見の拡大、他では経験できない実践の積み重ね、仲間との出会い、または疲労、困ぱい、すり切れ、落胆、あるいは自分自身の可能性と不可能性の発見、要するにふつうの言葉でいうところの「青春」？ だったら高等科体験は、単なるその繰り返しか？ 「単なる」であれば、高等科が存在する意義は薄い。高等科には、初等科とは「異なる」青春が用意されている。「10分短編実習」「コラボレーション実習」を経て、「修了制作」に至る高等科の体験が常に受講生に問うのは、初等科の体験＝青春を、いかに血肉＝思想に鍛え上げるかです。

■ 新たな仲間作り「10分短編実習」

受講生が企画開発したシナリオを選抜し、受講生が監督、及び技術スタッフとなって10分の短編を作るこの実習は、初等科の撮影実習や修了制作の繰り返しではありません。大きな違いは、メンバーが高等科生同士という仲間意識の更新です。受講生は顔なじみでも、みなそれぞれ高等科に向けた目標や希望を持っています。実習を通して、まずは「新たな」仲間作りをして下さい。

■ “プロとの映画作り”「コラボレーション実習」

映画作りにおいて何をどれだけ経験したか、その「量」の差が、いわゆるプロとアマを分かちます。そのことを嫌というほど思い知るのは、プロと同じ現場に立ったときのプロの動きが、アマであるあなたとはまったく違うことを目の当たりにしたときです。大事なのは、このプロと「同じ現場」に立つことで、「量」とは何かを具体的に問うという体験です。

「コラボレーション実習」では、プロである講師陣とともに20分程度の短編映画を企画し、撮影し、仕上げます。受講生のなかからも監督が選ばれ、受講生全員が講師陣（当然ながら技術講師も、またプロの現場スタッフとして参加する）と「同じ現場」で、協働（コラボ）しながら映画作りを行います。しかし、「量」が常に勝利するわけではありません。「量」に伴うべきは「質」だし、「質」はときとして「量」の多寡と無関係に、つまりプロとアマの差を超えて、きっとあなたを動かします。その「動き」が、受講生を「修了制作」での「動き」へと導きます。

■ 体験を血肉化する「修了制作」

「青春」の後に来るのは「旅立ち」です。そのための最後の準備が「修了制作」です。「10分短編」「コラボ」で得た体験を、まずは一人にもどって醸成させてシナリオを企画し、再び仲間とともに一部映像化（ビデオ課題）し、シナリオを完成させます。完成したシナリオは選考にかけられ、選抜されたシナリオを受講生だけで制作します。制作費は学校の予算およそ45万円です。「修了制作」を経て、果たしてあなたの高等科体験は血肉＝思想となって、修了後のあなたを何処へと旅立たせるでしょうか。

○演出・脚本講師：万田邦敏（映画監督）、池田千尋（映画監督）

○技術講師：山田達也（撮影）、臼井勝（録音）

担当講師メッセージ

「言葉にしていこう」

私が授業で行うのは、受講生のみなさんが作る10分短編作品と修了制作作品のシナリオ開発の手助け、10分短編作品の上映講評を通しての演出技術のアドバイス、コラボレーション作品の共同製作です。

「手助け」と「アドバイス」に関しては、幾分かは「ダメ出し」の気味を帯びることもありますが、原則的には「こんな考え方があるので、そのことについて考えて欲しい」というスタンスで臨むつもりです。映画は感性で作るものではなく、まずもって思想で作るもので。ここでいう思想とは、映画表現とはいったい何かという問いに対するその人なりの思索の積み重ねのことです。つまり、「考える」ということです。「ダメ出し」があるとすれば、それは「考えてね」と言っているのです。同じことですが、「言葉にしてね」と言っているのです。

「共同製作」に関しては、1本の短編映画を受講生のみなさんと文字通り共同で作るということです。ここでは、私の思想とみなさんの思想を実践に変換していく様々な局面を体験することになりますが、思想がそのまま丸ごと作品として表現されることはあり得ず、多くの思い違い、考えの甘さ、強いられる妥協、しかしときとして思わぬ飛躍を経験し、思想がさらに鍛えられます。

そして鍛えられた思想を、今度はみなさん自身が映画表現として実体化する場が修了制作となります。

それから、これはとても重要な情報ですが、過去に高等科へ進んだ受講生たちの中には、高等科のカリキュラムを受講することで自分の進む道に目覚めた人がたくさんいます。初等科だけではつかみきれなかったことを、高等科でしっかりと実感し得たのだと思います。彼らは監督に限らず、脚本家や技術スタッフやプロデューサーとして今も映画に関わり続けています。

万田邦敏

初等科を経て新たなスタート地点に立ったみなさんと共に何ができるのか、どんな化学変化が起こるのか。私自身も新たな思いで、多くを学び発見していくつもりです。

みなさんは初等科での映画制作を通じて、それぞれに自身の課題を自覚し、直面している最中と思います。向き合い切れなかったこと、見つけられなかったもの、講評で指摘されて引っ掛かったままの言葉。そう簡単に答えは出ないし、自分に足りないものを自覚し続けるのは苦しい。けれど、それこそがあなたを今後押し上げ、引っ張り続ける大きな力になります。

映画に向き合うことは、自分という人間に向き合うことです。自分が持つ思考、言葉、知識、それがどれだけ足りないのか、弱点は何か。思い知りながら、自分の映画とは何か探し続ける。思い知るためにには、他者の助言や指摘が必要にもなります。あなたの課題を大きく目の前に掲げ、映画を作り続ける。一人では難しいことも、誰かがいれば可能にできる。映画美学校はそんな場所だと思います。

池田千尋

フィクション・コース第26期高等科 カリキュラムの主な流れ

9月30日	開講ガイダンス／10分短編要項提示	10分短編
10月	10分短編：企画検討	
11月	10分短編：シナリオアドバイス	
12月	10分短編：リハーサル・模擬現場撮影	
2024年1月	10分短編①②：撮影期間	
2月	10分短編①②：上映と講評 コラボレーション実習：企画提示 コラボレーション実習：スタッフ編成・ロードマップ会議	
3月	コラボレーション実習：企画開発・撮影準備	コラボレーション実習
4月	コラボレーション実習：機材の使い方（撮影・照明・録音） コラボレーション実習：テスト撮影 コラボレーション実習：リハーサル	
5月	コラボレーション実習：撮影本番 コラボレーション実習：編集	
6月	コラボレーション実習：DaVinci Resolveサウンド講義 コラボレーション実習：Final Mix コラボレーション実習：初号試写	
7月、8月	10分短編③：撮影期間、上映（8月） 修了制作：企画検討 修了制作：シナリオ検討	10分短編
9月	修了制作：最終シナリオ提出 修了制作：最終シナリオ検討会 修了制作：演出課題撮影期間 修了制作：演出課題上映・ディスカッション 修了制作作品決定	
	修了制作実習	

※10分短編、修了制作での「企画検討」「シナリオアドバイス」「シナリオ検討」「演出実習」は、クラスごと（万田邦敏クラス、池田千尋クラス）に行います。

【10分短編(チームで撮る)】

10分短編①②では、各自が10分短編の企画を提出し、その後、万田クラス、池田クラスに分かれて企画検討の講義を受け、企画をシナリオ化します。完成したシナリオから2本が選抜され、クラスをまたいで制作チームを再編成し、原則シナリオ執筆者が監督となってチームごとに準備・撮影・仕上げを行い、作品完成後に上映と講評が行われます。

10分短編③では、監督ひとりが選抜され、全員で課題のシナリオの準備・撮影・仕上げを行い、作品完成後に上映と講評が行われます。

【コラボレーション実習】

講師とともに短編映画のシナリオを開発し、撮影し、仕上げを行います。監督講師は万田と池田(予定)です。

コラボレーション実習の目標は大きく分けて2つです。

1. 講師(プロ)はどのようにシナリオを構想するのかを間近に見る

受講生は、コラボで製作する映画のシナリオを担当講師と共に企画、執筆します。通常の企画講評・シナリオ講評とは違い、講師も自分の作品としてシナリオ作りに参加してきます。講師が何を考え、何を拠り所とし、何を狙っているのか、講師のシナリオ作りの現場を共作者として体験します。シナリオの開発期間は約2ヶ月です。

2. 講師(プロ)の演出技術・撮影技術に間近に触れる

監督は講師と受講生(代表者)が務め、またプロである撮影照明講師、録音講師も参加して撮影・仕上げを行います。プロと共に進行する映画作りは、受講生仲間だけでの映画作りとはまったく別と言つていいほどの体験です。彼らの技術に同じスタッフ仲間として間近に触れることで、受講生の意識と技術は確実にレベルアップします。撮影期間は4日間程度を想定、ポスプロ期間は2ヶ月程度です。

「ハードを通過した後に残る経験値」(万田邦敏)

コラボのシナリオ作成では、講師の思想に受講生みなさんの思想をぶつけ、互いの思想を鍛え直すことによってより強度のあるシナリオの完成を目指すことになろうと思います。具体的に言えば、まずは講師がお題を出し、受講生の皆さんがそのお題を膨らませ、再び講師が参加して、講師と共にシナリオを仕上げていくということになります。シナリオは、芝居を考えながら書かなければなりません。ここで言う芝居とは実際的な演技のことではなく、アクションとリアクション、関係性の変化、ドラマ、つまりは生身の身体と感情のことです。芝居は、映画のフィクションとリアルを支える重要な要素です。芝居についての思索は、シナリオを作成しているあいだじゅう、ずっと問題になるだろうと思います。そしてそれは、撮影の現場でも問題になることです。芝居を成立させるために必要なものは何か。どのパートのスタッフも、結局はそれに向かって思考し、準備し、実行します。演出は、私と池田さんと受講生の代表者が分担して務めます。シナリオ作りと同様に、そこでも互いの思想がコラボレートします。撮影は、準備も含めてそれなりにハードです。しかしそれは、意味のないハードワークではありません。ハードを通過した後には経験値が残ります。その経験値は、みんなが修了制作を作る現場で活かされるし、その後のみなさんの映画との関わりにおいて活かされ続けるはずのものです。

◇準備(2月～4月)

準備段階における課題・問題点を全員で共有し、各部ごとの準備を進めます。また、実際のロケ地探しなども進めて行きます。

◇機材の使い方・テスト撮影(4月)

撮影に向けて、撮影部・照明部・録音部はあらためて機材についてレクチャーを受け、撮影本番に向けてのテスト撮影を行います。

◇リハーサル(4月)

実際に撮影で使用するシナリオをもとに、芝居を作り込んでいく過程を受講生全員で体験します。

◇撮影(5月予定)

講師陣とともに撮影現場を体験します。初等科で行ったミニコラボ実習とは比較にならない、経験したもの曰く「これを通るか通らないかでは全く違う」現場体験が待っています。

◇コラボレーション編集(5月)

完成までの作業を自分たちで行います。スタッフを再編成し、全員で編集から仕上げまで取り組みます。

◇デジタル・グレーディング(5月)

映像の色彩補正作業は、作品の最終的なルックを決める大事な作業です。

◇仕上げ作業(5～6月)

編集同様、完成までの作業を録音講師の指導を受けて自分たちで行います。「DaVinciResolve サウンド講義」を経て、本格的な整音作業を体験します。「音で映画を豊かにする」ということはどういう事なのかを実際に機材を動かしながら体験して行きます。ファイナルダビングミックスには録音講師が立ち会います。

【修了制作】

受講生各人が、まずは自分自身の修了制作作品となる24分から30分尺のシナリオの企画・開発を行います。その後、企画検討→シナリオ化→シナリオ検討→一部分の映像化(&上映と講評)→最終シナリオ(&シナリオ検討会)と続きます。これまでの高等科体験で得たものを総動員して、書き物・映像両面から検討を重ねて最終シナリオと最終演出課題を完成させます。最終シナリオ、最終演出課題をもとに、2024年9月に修了制作を選考します(修了制作の本数は受講生の人数(つまり予算)によって変動します)。10月から制作を開始し、4月ごろに完成を予定しています。完成尺は30分です。

【映画表現論】 フィクション・コース初等科との合同講義で、映画表現論(2回)を行います。

映画美学校フィクション・コース第26期高等科 募集要項

■受講期間：2023年9月30日（土）から2024年9月

※2024年9月から2025年4月までは修了制作の制作期間となります。

■受講資格：第26期までのフィクション・コース初等科修了生、フィクション・コース第24期前期修了生／第24期初等科後期修了生、
映画映像制作の基礎を修得した方

■講義日程：<開講日>2023年9月30日（土）15時から。※詳しくはカリキュラム日程表をご覧ください。

■定員：26名（最低開講人数19名）

■受講料：379,000円+保険料9,000円=388,000円（税込）

※映画美学校をはじめて受講される方は、上記の受講料以外に入学登録料（10,000円）が必要になります。実習費等の別途徴収はありません。

※受講料のお支払いは一括支払いか分割支払いをお選びください（映画美学校通年講座を初めて受講される方は全額分割はご利用いただけません）。

※受講証の有効期限は2024年9月までとなります。

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして

総額388,000円（受講料379,000円・保険料9,000円）

194,000円を前払い（映画美学校通年コースを初めて受講される方は204,000円） 残額194,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	194,000	194,000	8,150	202,150	40,430
10	7.00%	388,000	194,000	194,000	13,580	207,580	20,758

全額388,000円が分割払いになります。（映画美学校通年コースを初めての方は選択出来ません）

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	0	388,000	16,300	404,300	80,860
10	7.00%	388,000	0	388,000	27,160	415,160	41,516
20	10.50%	388,000	0	388,000	40,740	428,740	21,437

（単位：円／税込）

■申込締切：2023年9月22日（金）まで（尚、締切日以前に定員に達した場合は申込受付を締め切らせて頂きます）。

■申込方法：オンラインによる申込

申し込みはこちら

映画美学校ホームページよりお申し込みください。

選考のうえ、合格者には、合格通知と受講手続きのご案内をメールまたは郵送いたします。



■受講手続：合格通知に記載されている受講手続きに従い、受講料をお振込ください。入金が確認された時点で申込み受付完了となります。

※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

映画美学校約款

■受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがあります。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

■受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令(コピー可)など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

■受講開始日より起算した返金額

- 30日前まで：全額の90%
 - 29日前～14日前まで：全額の75%
 - 13日前～7日前まで：全額の50%
 - 6日前～1日前：全額の25%
- なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

■安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前にことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていらないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

■著作権について

- ◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することができます。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前(松濤郵便局前)交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月~土) 12:00~20:00

